

リニア「神奈川県駅」近くに企業交流拠点 JR東海

2023/11/01 19:00 日本経済新聞電子版 585文字

JR橋本駅（相模原市）南口近くで建設が進むリニア中央新幹線の「神奈川県駅（仮称）」を巡り、JR東海は1日、神奈川県と相模原市と連携協定を締結した。2024年春に企業交流拠点を設置する。生活支援ロボットや宇宙関連産業などの企業に入居してもらい、実証事業や共同研究などを促す拠点として運営する。

相模原市の「イノベーション創出促進拠点運営事業」をJR東海が受託した。JR東海は橋本駅南口近くの県有地を借り1階建て、延べ床面積約320平方メートルの建物を建設する。7社程度が入るオフィス、イベントなどができる共用スペースなどを設ける予定だ。

建設に先立ち、24年初頭からオンラインなどでセミナーやイベントなどを開くとしている。1日、JR東海東京本社で開かれた記者会見で丹羽俊介社長は「地域と連携しイノベーション創出に貢献したい」と話した。

相模原市を含む10市2町は「さがみロボット産業特区」としてロボットなど先端技術の研究施設の集積が進んでいる。神奈川県の黒岩祐治知事は「降りたくなる駅にするためロボットがあふれる街にしたい」と意欲をみせた。

相模原市は1日、リニア新駅周辺の「まちづくりガイドライン」を策定したと発表した。「ものづくり産業交流ゾーン」「広域交流ゾーン」など4つのゾーンに分けて土地利用方針を提示。今後、ガイドラインを指針として民間開発の円滑な誘導を図るとしている。



握手を交わすJR東海の丹羽社長（左）と相模原市の本村賢太郎市長（中）、神奈川県の黒岩知事（右、東京都港区）

許諾番号30096086 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.